

丹波篠山市菊花同好会

未来へとつなぐ文化継承

「デカンショ節の一節にある『殿も愛でたよお苗菊』。お苗菊は旧篠山藩主青山忠良が1840年頃、江戸幕府より拝領し、栽培されたと伝えられる中菊です。今でも門外不出の菊として市民に愛育されています。今回は、お苗菊の継承に努める「丹波篠山市菊花同好会」の活動をお伝えします。



リポーター 畑弘恵さん



咲き初めから約30日、花形全体を大きく変化させて満開を迎える珍しい品種特性

お苗菊

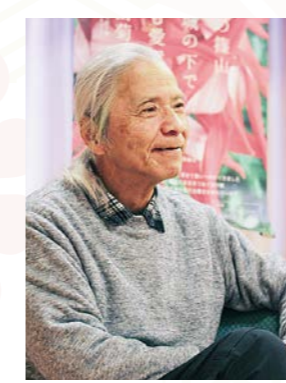


文化を大切に 丹波篠山市民の誇り

250余年の歴史を持つ丹波篠山での菊作り。1925年に「第一回菊花展覧会」が開催され今年で100年目を迎えます。

お苗菊には「清楚で、すらりと穏やかな立ち姿を良しとする」など、独特な栽培様式があり、同好会では月1回の講習会、市と共同開催の「菊花展」を通じて、保存と継承に欠かせない力量を持つ会員の育成に取り組んでおられます。

二時は会員の高齢化・減少で将来を心配したが、中学生など若い世代も入会し、今では会員は56人を数えるまでに。丹波篠山の文化の一つ「お苗菊」の価値はとも高貴、思いと誇りを大切に



丹波篠山市菊花同好会 理事 岸田士郎さん



丹波篠山市菊花同好会員の声

伝統を守り、つなぐ

お苗菊のすっきりした仕立ての美しさに惹かれ入会しました。家の前に並べていると「きれいな〜」と褒めていただくことも。お苗菊は市の誇りです。しっかり作法を守り、伝統をつないでいきたいです。



辻本さんの作品
お苗菊のつくり手
辻本光さん

花と向き合う

定年後、しばらくして始めた菊作り。入会後は丁寧な指導があり、菊作りを楽しんでいます。思うように咲かないこともありませんが、日々研究し向き合っています。今年は花の色の移ろいを楽しみたいです。



寺本さんの作品
てらもとよしこ
寺本敬子さん

同好会の活動

- 4月下旬 ~ 5月上旬 挿し芽
- 6月 小鉢上げ(または定植)、摘芯(1)
- 7~8月 定植、摘芯(2)、高温対策、仮支柱、増し土、施肥
- 9~10月 脇芽取り、摘蕾、本支柱、仕上げ・展示品の準備
- 11月 菊花展 (11月上旬~中旬)
- 12月 お礼肥、越冬準備
- 1~2月 冬越し
- 3月 施肥・病虫害対策



昨年の菊花展は三の丸広場で開催。414作品が並び、眺めが良くゆったり菊を鑑賞できると好評で、期間中約6,000人の来場者の目を楽しませました。



旧篠山藩主ゆかりのお苗菊にふさわしく、昨年の授賞式は篠山城大書院虎の間で盛大に開催されました。

地域探究の学びと地域の連携

「お苗菊の魅力を伝えよう 一地域の方と共に育てるお苗菊」を活動目標に、人間関係を高め、伝統を受け継ぐ誇りを深められたと思います。探究とふれあいの経験を通して、大人になっても変わらず丹波篠山を好きでいてほしいと願っています。

篠山小学校5年生担任
小田浩平さん



お苗菊は、1つの苗から7つの元気な花を咲かせるように仕立てるんだよ



役割を担っています。

お苗菊を共に未来へ!
篠山小学校と城北畑小学校では、ふるさと教育の一環として、児童がお苗菊の栽培にチャレンジし、菊花展に出品しています。篠山小学校は、昨年度から活動を開始。5年生の児童が取り組みます。市に伝承されるお苗菊21種類の中から自分の好きな菊を選び、同好会指導のもと、地域からも支援を受けながら菊の生長を学びます。また、全校生や保護者、地域の方に伝える活動を通して、文化継承の役割を担っています。

~ 新規会員募集中 ~

きっとあなたの花は咲きます。丹波篠山市の「価値」「誇り」を、一緒に継承しませんか?

年会費 1,500円

申し込み方法
商工観光課へ申込書を提出、または岸田士郎さん(黒田133-7)へ郵送、もしくは右記二次元コード

問い合わせ 丹波篠山市菊花同好会事務局 (商工観光課内) ☎552-6907

に、お苗菊の保存と継承に努めていきたい」と話された、理事の岸田士郎さん。現在、日本の園芸文化遺産の保存と継承を担う各地の団体は、高齢化などで衰退・消失の危機にあります。そんな中、同好会は丹波篠山の誇りであるお苗菊を後世へつなぐために奔走され、昨年末には長年の功績がたたえられて県の「ともしの賞」を受賞されました。

「お苗菊は手のかかる子どものもので愛おしい」と笑顔で話された岸田さんから、お苗菊への深い愛を感じました。

植物にも、水と栄養と愛情が大切

特集
情報ピックアップ
タウンレポート
HOTトピック
市政リーダー
インフォメーション
おでかけ・相談
はぐくみ
街かどレポート
まちの話